

センリョウ産地で発生するアザミウマ類（情報）

農業技術センター

〔背景・ねらい〕

センリョウは主に正月の縁起物として販売される日本の伝統花きであり、花き枝物市場の主要な品目である。先駆的な生産者はセンリョウの試験輸出に取り組み、需要の拡大を模索している。センリョウに発生するアザミウマ類は、発生生態が明確でないため被害実態がつかめず適正な防除体系を組むことができなかった。また、台湾等ではアザミウマ類が検疫対象となるため、発生種や発生時期の把握は輸出の検疫対策には必須である。

そこで、高知県センリョウ産地でのアザミウマ類の発生状況を調査し、主要な発生種の生態とその被害を明らかにする。

〔技術の内容・特徴〕

1. 11月以降の収穫時にアザミウマ類がセンリョウに混入するリスクは低い。
 - 1) ほ場で発生する主なアザミウマ類は、ハナアザミウマ、ネギアザミウマおよびチャノキイロアザミウマであった（図1、2）。
 - 2) アザミウマ類の発生は、開花～果実肥大初期の6月中下旬～7月上旬に増加したのち7月中下旬から減少し、8月以降はほぼ確認されず（図3）、センリョウ株への寄生も8月以降全く認められなかった（データ省略）。
2. アザミウマ類によるセンリョウへの被害は少ない。
 - 1) ハナアザミウマを高密度に接種すると、果実に現地で発生がほとんど見られない小斑点の障害が認められた（表1、写真1）。
 - 2) ハナアザミウマの高密度接種により、現地で問題となっているコルク状の障害がわずかに認められたが、無接種でも同程度発生したことから（表1、写真1）、本障害の原因はハナアザミウマの可能性は低いと考えられた。
 - 3) ネギアザミウマおよびチャノキイロアザミウマでは、障害は全く認められなかった（データ省略）。

〔留意点〕

1. アザミウマ類は、地域によって発生種やセンリョウに対する加害部位が違う可能性がある。
2. 暖冬など天候によっては、収穫時期までアザミウマ類の発生が継続する可能性がある。

〔評 価〕

アザミウマ類の発生種および発生消長が明らかとなり、防除指導の参考となる。

〔具体的データ〕

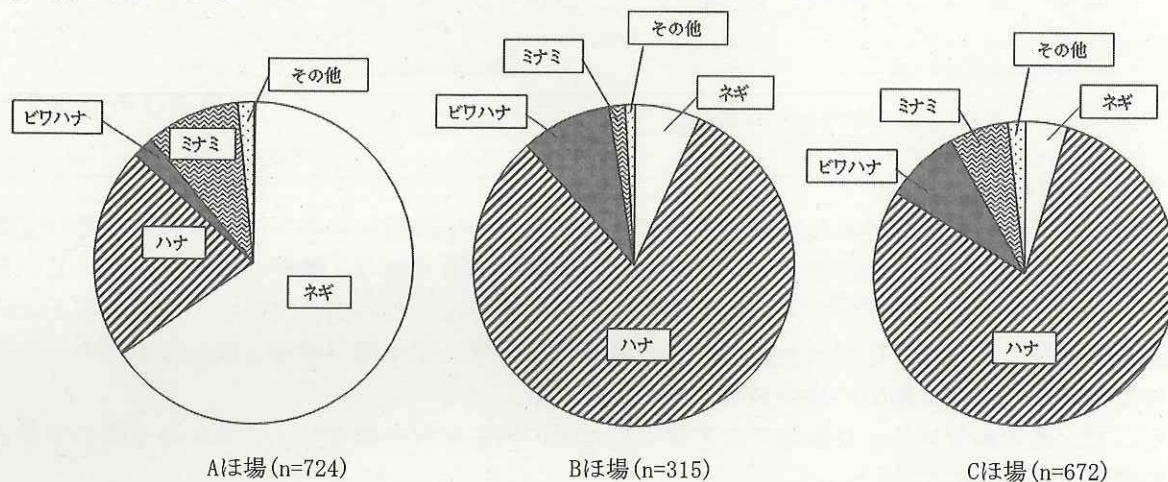


図1 センリョウほ場に設置した粘着トラップ(青色)に誘殺されたアザミウマ類の種構成 (2018)

注1) nは誘殺虫数の合計を示す。

2) 調査場所は室戸市、調査期間は5月31日から7月20日

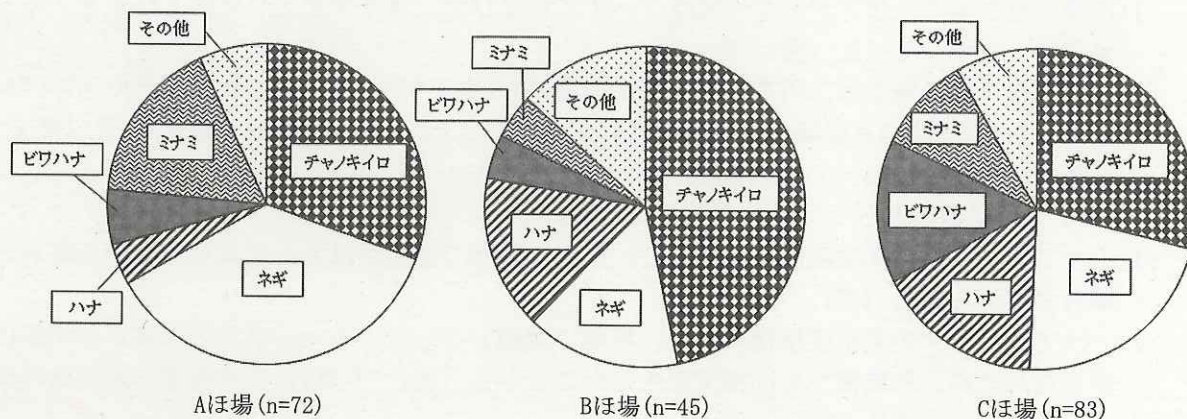


図2 センリョウほ場に設置した粘着トラップ(黄色)に誘殺されたアザミウマ類の種構成 (2018)

注1) nは誘殺虫数の合計を示す。

2) 調査場所は室戸市、調査期間は5月31日から7月20日

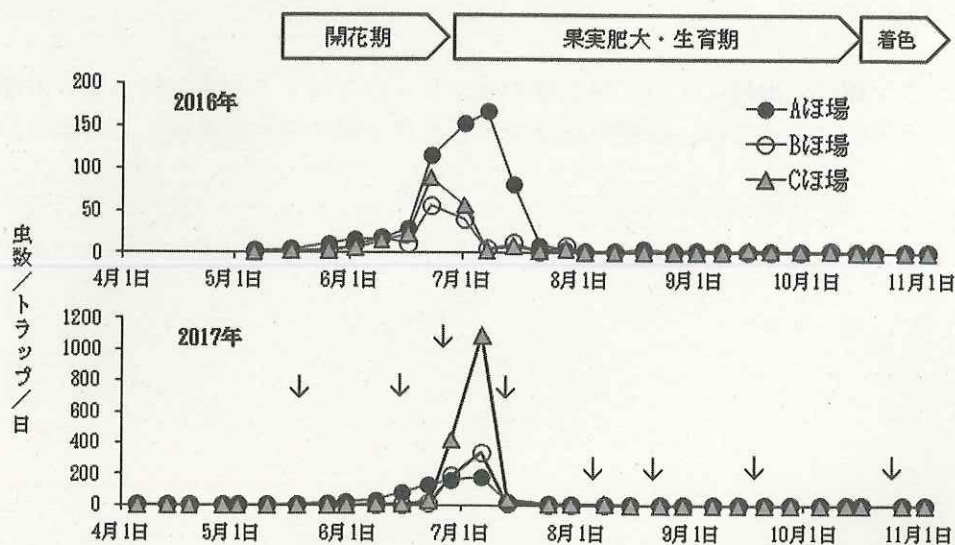


図3 センリョウほ場でのアザミウマ類の発生推移 (2016～17)

注1) 粘着トラップ(青・黄)を設置して、概ね7～10日間隔で交換し、誘殺されたアザミウマ類の個体数を調査した。

2) ↓はアザミウマ類対象の殺虫剤散布を示す(2017年のみ)。

表1 幼果期のハナアザミウマ接種による果実障害の発生状況(2018)

接種虫数	反復	果実数	コルク状の障害発生程度 ^{a)} 別果実割合(%)			小斑点状の障害の 平均数 (果実当たり)
			A	B	C	
50頭	1	28	7.1	0	0	5.7
	2	15	6.7	0	0	0.6
	3	17	0	0	0	6.0
	4	7	0	0	0	42.8
	5	11	9.1	0	0	2.6
	平均	15.6	4.6	0	0	11.5
20頭	1	13	7.7	0	0	9.4
	2	8	0	0	0	40.1
	3	9	0	0	0	18.3
	4	15	0	0	0	6.7
	5	10	10.0	0	0	5.1
	平均	11.0	3.5	0	0	15.9
無接種	1	8	12.5	0	0	0
	2	26	0	0	0	0.5
	3	15	6.7	0	0	0.4
	4	8	0	0	0	0.1
	5	10	10.0	0	0	0
	平均	13.4	5.8	0	0	0.2

注1) 幼果期(7月11日)の果房にプランクトンネットで網掛けし、その中にハナアザミウマ成虫を接種した。

2) 調査は8月24日

a) 障害発生程度 A: 障害あり、発生面積10%未満、B: 同10%以上30%未満、C: 同30%以上



写真1 センリョウほ場における果実障害の症状

[その他]

研究課題名: 病害虫に対する新農薬の効果検定試験

(農業・食品産業技術総合研究機構、茨城県農業総合センターとの共同研究)

研究期間: 平成28~30年度(課題期間: 昭和60年度~)

予算区分: 受託(革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)「日本の伝統花きセンリョウの輸出を見据えた輸送および病害虫対策技術の確立」)

研究担当: 病理担当、昆虫担当

分類: 情報